女性ホルモンと乳がんについて

女性ホルモンの役割は、女性らしいカラダづくりのみならず、自律神経の働きを安定させ、コラーゲンの生成を促して美肌をつくり、血管・骨・関節・脳などの健康を保つといった重要な役割を持ちます。しかし、女性が生涯最もかかるがんの第1位である乳がんは、全体の約7割の方が女性ホルモンを利用してがんが成長することがわかっています。30年前には24人に1人の女性が乳がんと診断された時代から、現在は9人に1人の女性が乳がんと診断される時代になりました。なぜ急激に乳がんが増えたのでしょうか。

乳がんが増える背景は、食生活が豊かになり、体格が良くなり、女性の初潮年齢が早まり、閉経年齢が遅くなったこと、晩婚化・少子化で出産経験がない、または少なくなったことなどが挙げられます。戦前の日本のように、食糧事情が良くなく、子たくさんであった時代は、女性ホルモンにさらされる時間が現代よりも明らかに短く、乳がんが成長しにくい環境であったと言えます。

過去の生活環境に今から戻ることはできませんが、早期乳がんであれば約9割の方が治る事実も一方であり、検診を前向きにとらえ受けていただけたらと思います。

令和4年6月

米田 光里